

委員等プロフィール

参考資料2



塩崎 彰久 プロジェクトチームリーダー
厚生労働大臣政務官

愛媛県松山市出身。1999年東京大学法学部卒業、2000年スタンフォード大学大学院国際政策学修士課程修了、2010年ペンシルバニア大学ウォートン校経営学修士課程修了。2002年弁護士登録。2006年内閣官房長官秘書官。2021年衆議院議員に初当選。現在1期目。2023年9月より厚生労働大臣政務官。弁護士時代に多くのスタートアップ支援やヘルスケア関連のコンプライアンス案件に従事。自民党AIの進化と実装に関するPT事務局長などを歴任。



池野 文昭 委員

Stanford University Researcher/ MedVenture Partners, Inc Chief Medical Officer

自治医科大学卒業。2001年からスタンフォード大学循環器科での研究を開始し、米国医療機器ベンチャーの研究開発、動物実験、臨床試験等に関与。医療機器分野での豊富なアドバイザー経験を有し、日米の医療事情に精通。医療機器における日米規制当局のプロジェクトにも参画し、国境を超えた医療機器エコシステムの確立に尽力。スタンフォード大学では、研究と平行し、14年から、Stanford Biodesign Facultyとして、医療機器分野の起業家養成講座で教鞭をとっており、日本版Biodesignの設立にも深く関与。また、2013年に創設した医療機器に特化したベンチャーキャピタルMedVenture PartnersのChief Medical Officer兼務。日本にもシリコンバレー型の医療機器エコシステムを確立すべく、精力的に活動。



奥田 浩美 委員

株式会社ウィズグループ 代表取締役/ 一般社団法人ヘルス・アンド・ウェルビーイング・アライアンス 代表理事

起業家、投資家、日本のスタートアップエコシステムビルダーの草分け。
ムンバイ大学（在学時：インド国立ボンベイ大学）大学院 社会福祉課程修了。
1991年にIT特化のカンファレンス事業を起業。2001年に株式会社ウィズグループを設立。2008年よりスタートアップ育成支援に乗り出し、スタートアップエコシステムビルダーとしての活動を開始。一般社団法人ヘルス・アンド・ウェルビーイング・アライアンス(HAWA)を設立し、ヘルスケア・ウェルビーイング分野のアクセラレータを運営。



鍵本 忠尚 委員／バイオ再生 タスクフォース主査
株式会社ヘリオス 取締役 兼 代表執行役社長 CEO

九州大学病院にて眼科医として勤務の後、2005年、1社目の大学発バイオベンチャーを起業。2011年2月、再生医療の実用化を目指し当社設立。2012年2月、(株)ヘリオス代表に就任。2015年6月、東証マザーズ上場。難治性疾患に苦しむ患者さんへ治癒と希望を届ける、という初心の実現に向け、再生・細胞医薬品という新たな産業創生に取り組む。



鹿野 佑介 委員／介護テック タスクフォース主査
一般社団法人日本ケアテック協会 会長／株式会社ウェルモ代表取締役会長兼社長

東京大学高齢社会総合研究機構共同研究員。(株)ワークスアプリケーションズにて人事領域のITコンサルタントを経て東証一部上場企業人事部へ。8か月間にわたり仙台から東京、福岡まで、計400法人を超える介護事業所にてボランティアやインタビューを実施。現場の働きがいに課題意識を持ち、2013年(株)ウェルモを創業。経済産業省主催ジャパン・ヘルスケアビジネスコンテスト等、国内外14賞を受賞。2020年(一社)日本ケアテック協会会長就任。厚生労働省社会保障審議会給付費分科会での陳述や経産省、総務省の委員等を務める。



香本 慎一郎 委員
Eight Roads Ventures Japan Partner

グローバルVCであるEight Roads Ventures Japanにて、ヘルスケア領域の投資責任者として2017年に参画。前職の三井物産(株)では長年に渡り米国・アジア・日本にてヘルスケア投資・M&A・子会社運営の経験をもつ。現在は、複数投資先の社外取締役としてハンズオン経営支援を行い、日本発の世界に羽ばたくヘルスケアベンチャーの育成に日々汗を流す。



小柳 智義 委員
京都大学医学部附属病院 先端医療研究開発機構 ビジネスディベロップメント室 室長 特定教授

全編英語のピッチイベントHVC KYOTO、日本初医療系アクセラレーションプログラム Research Studioの企画・運営の他、多くのベンチャー育成プログラムの講師、アドバイザーを務める。米国企業での営業／マーケティング、創薬・再生医療ベンチャーでの事業開発職を歴任した後、京都大学にて産学連携に従事。複数のJoint Ventureおよび、Startup創出に関わる。Stanford大学ではTranslational Researchの教育プログラム“SPARK”創設者のMochly-Rosen博士に師事。大阪大学大学院卒。



鈴木 謙輔 委員

長島・大野・常松法律事務所 パートナー弁護士

医薬品、医療機器、再生医療、医療データ、デジタルヘルスその他広くライフサイエンス分野において、規制・コンプライアンスに関する助言のほか、M&A・提携、新規参入、資金調達等の事業活動全般にわたってアドバイス。2000年弁護士登録、長島・大野・常松法律事務所入所。2006年Stanford Law School卒業(LL.M.)、2006年～2007年Kirkland & Ellis (Chicago)勤務。2007年～2009年金融庁総務企画局市場課勤務、2014年～2015年厚生労働省参与。



曾山 明彦 委員

一般社団法人ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン 常務理事/
東北大学特任教授／(株)エグゼクティブ・アライアンス代表取締役

東京大学理学部物理学卒業後、通産省(現経産省)入省。人事院長期在外研究員として米国コロンビア大学でMBA取得。(株)ボストンコンサルティンググループのマネージャー、トランス・コスモス(株)専務取締役を経て、ジョンソン・エンド・ジョンソン(株)ヴァイスプレジデント、複数の欧米系医療機器企業の日本法人社長を歴任。厚労省、経産省、AMED、札幌市、神戸市の委員等。



原 聖吾 委員／医療DX・AI タスクフォース主査

日本医療ベンチャー協会 理事／株式会社 MICIN 代表取締役 CEO

国立国際医療センターに勤務後、日本医療政策機構で政策の立案に携わる。米スタンフォード大学への留学を経てマッキンゼーに入社。厚生労働省「保健医療2035」事務局にて、2035年の日本における医療政策についての提言策定に従事した。2015年株式会社MICINを創業。東京大学医学部卒、スタンフォードMBA。一般社団法人日本医療ベンチャー協会 理事、日本医療政策機構フェロー。



本庄 修二 座長

本庄事務所 代表／多摩大学 客員教授

厚生労働省医療系ベンチャー振興推進会議座長。
日本、米国、アジアのスタートアップ、大企業、投資家のアドバイザー。500Global、Endeavor、Founder Institute、始動Next Innovator、福岡県などで起業家メンターを、またIPA未踏アドバンス審査委員を務める。ボストン コンサルティング グループ、米Computer Sciences Corp.にて経営コンサルティングに従事後、CSK/セガ・グループで会長付・グループ戦略室マネジャーを務める。米国の投資育成会社General Atlantic LLC日本代表などを経て、現在に至る。



八木 雅和 委員／メドテク・医療機器・SamD タスクフォース主査

大阪大学 大学院医学系研究科保健学専攻・寄附講座准教授

2003年に東京大学大学院工学系研究科博士課程を修了後、歯学部、医学部にて、専門家の知識を実装した意思決定支援システムに関する研究などに携わる。2014年にスタンフォード・バイオデザインにて教員研修を修了後、ジャパンバイオデザイン立ち上げに参画、プログラムダイレクターに就任。2019年11月、日本バイオデザイン学会立ち上げに参画。2022年4月より現職にて、ニーズ発メドテックイノベーションエコシステム構築に貢献すべく、人材育成を推進中である。



吉澤 美弥子 委員

一般社団法人 VC スタートアップ労働衛生推進協会

慶應義塾大学看護医療学部在学中、英NHSでの研修をきっかけに医療保険制度と医療ベンチャーに関心を持ち、ヘルステックのビジネスメディアを立ち上げ、2016年M Stage社に売却。VCの500 Startups Japan、Coral Capitalの立ち上げに参画し医療、ヘルスケア分野中心に投資担当として従事。新型コロナワクチンのスタートアップ向け合同職域接種の実施をきっかけに、2022年独立しスタートアップ業界向けの健保組合の新設業務に取り組む。